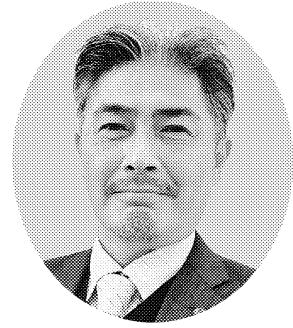


◇2026年 年頭所感

技術士の出番

日本技術士会佐賀県支部長 福岡 仁



新年あけましておめでとう
ございます。謹んで新春のお
慶びを申し上げます。

公益社団法人日本技術士会
は、技術士制度の普及、啓発
を図ることを目的として誕生
し、今年で75年、三四半世紀
の節目を迎えます。

技術士とは、文部科学省管
轄のもと、日々、継続研鑽に
励み、科学技術に関する技術
的専門知識と高等の応用能力
及び豊富な実務経験を有し、
公益を確保するため、高い技

術者倫理を備えた技術者であ
ります。佐賀県内には、建設
農業、森林、上下水道、応用
理学などを専門とする約10
0名の技術士が、主に自治体
や企業内技術士として活躍し
ております。

さて、平成28年1月に閣議
決定した第5期科学技術基本
計画においてSociety
5.0が提唱され10年になり
ます。建設関連においても、
頻発・激甚化している自然災
害や地球温暖化、沸騰化によ
る気象と環境への対応や設計
・施工・維持の建設プロセス
全体の生産性向上への対応が

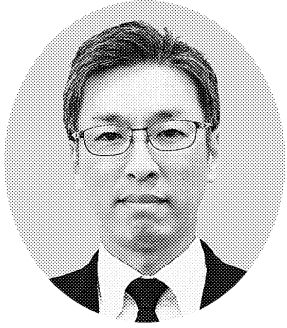
求められています。具体的に
は、建設DXに代表されるU
AVによる測量や点検の効率
化、ICTに対応したBIM
/CIMへの対応、VRやA
Iの利用による施工管理の効
率化などが求められていま
す。このような急激な変化に
対して、これまで以上に技術
士の出番が求められてきてお
ります。

佐賀県支部も設立12年目を
迎え、設立当初から「佐賀県
支部は、会員の倫理の啓発、
資質の向上、品位の保持に努
め、技術士制度の理解と技術
士の知名度・地位の向上、技

術士の活用促進、会員の増加
を図り、地域の発展・活性化
に資する活動を行うことを運
営方針とする。」を掲げて活
動を行っています。『倫理の
啓発と資質の向上』では、技
術懇話会や技術士CPDを開
催しています。『技術士制度
の理解と技術士の知名度の向
上』では佐賀大学や佐賀県内
の高校生や中学生への技術士
の説明を行っています。今
後は、技術士の活用と会員の
増加を図る取り組みとして、
若手技術士補を対象とした育
成や建築士や弁護士、防災士
など、土業連携も視野に入れ
ます。

佐賀の建設を支える クレーン業の責任

佐賀県クレーン協会会長 元山 英信



新年あけましておめでとう
ございます。日頃より当協会
の活動に温かなご理解とご協
力を賜り、心より御礼申し上
げます。会員企業の皆様をは
じめ、県内建設業界の皆様は
支えられ、私たちクレーン業
は各現場の安全と作業の要を
担う存在として、その使命を

果たしてきております。その
責任の重さを胸に、新たな一
年を迎えております。

昨年は、安全に関する知識
と技術の向上を目的に勉強会
を開催し、過去の災害事例を
検証しながら現場で求められ
る判断力と安全意識を深めま
した。また、安全大会を実施
し、安全最優先の姿勢を会員
企業全体で確認する機会とな
りました。これらの活動は、
安全文化を確かなものとし、
県内建設業界全体の安全意識
の向上に寄与するものと考え
ております。さらに、佐賀イ
ンターナショナルバルーンフ

ェスタでは環境ボランティア
活動に参加し、地域とのつな
がりをおため深く感じる
機会となりました。

一方で、県内の建設投資の
減少、人材不足、資機材の高
騰、働き方改革による稼働の
制約など、業界を取り巻く環
境は大きく変化しています。
こうした状況下にあっても、
クレーンは建設工程を支える
重要な役割を担い続けてお
り、その責任はさらに増して
おります。私たちが安定した
技術力と確実な業務体制を維
持することは、佐賀県の建設
現場の品質と安全を守ること

謹んで新年の
お慶びを申し上げます

